



おし
らせ

主な催し
8月▶11月

- ポタニカルアート作品展
8月28日(火)▶9月9日(日)
- 秋の山野草展
9月15日(土)▶9月17日(月)
- 山野草の育て方教室 9月16日(日)
- 四季観察会
9月24日(月)・10月21日(日)
- 家族で自然を楽しもう
9月30日(日)
- きのこ写真展
10月6日(土)▶10月21日(日)
- 山野草展
10月13日(土)▶10月14日(日)
- きのこ鍋の会 10月28日(日)
- 写真コンテスト入賞作品展
11月1日(木)▶11月25日(日)

●開園時間等

- ・開園時間
4月～5月 9:00～16:30
6月～8月 9:00～18:00
9月～11月 9:00～16:30
- ・休園日/毎週月曜日
ただし、月曜日が祝日・
休日の場合はその翌日
- ・冬期間休園/12月～3月
- ・入園料
大人/300円
高校生/150円
小中学生/100円
(ただし、土曜日は
小・中学生無料)
団体割引(20人以上の場合)
大人/240円
高校生/120円
小中学生/80円

●交通案内

- ・JR山形駅より山形交通路線バス西藏王・野草園行
き終点下車
- ・山形自動車道蔵王I.Cより西藏王高原ラインを蔵
王温泉方面へ15分
- ・滝山小、芸工大方面より岩波経由で自家用車15分

山形市

野草園だより

33号



シンボルマーク
原画 阿部功雲氏

ヤマユリ (ユリ科)

花期7～8月

山地に生える多年草。高さ1～1.5mの日本特産のユリ。花は大輪で、径15～20cmもあり、強い芳香がある。白い花の内側には赤い小点がある。りん茎は黄白色の扁球形で径6～10cmあり、食用になる。

野草園だより

編集・発行/山形市野草園

33号/平成19年8月発行

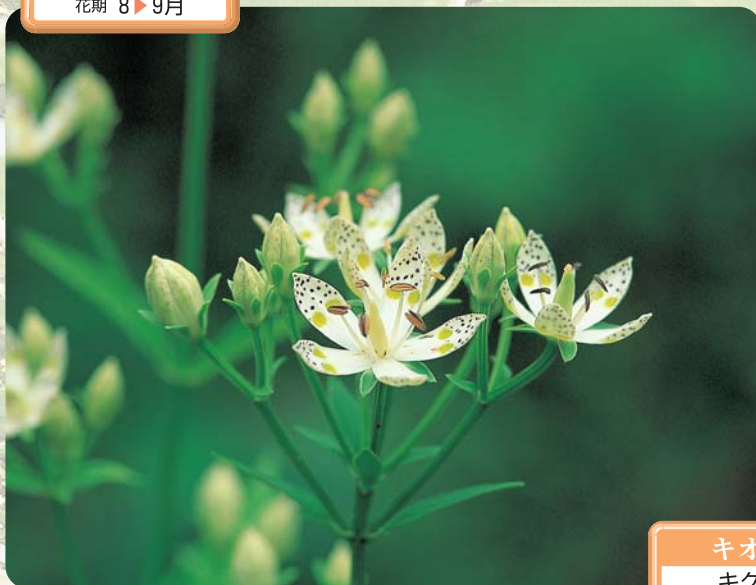
〒990-2406 山形市大字神尾832番地の3

TEL 023(634)4120・FAX 023(634)4121

カメラ
アングル

林内、林縁に 咲く花と木の実

アケボノソウ
リンドウ科
花期 8▶9月



キオン
キク科
花期 8▶9月



に入ってみましょう。
光っている花々や、
木の実が私達を待っています。

オタカラコウ
キク科
花期 8▶9月



クサギ
クマツツラ科
花期 8▶9月



シデシャジン
キキョウ科
花期 8▶9月



シラヤマギク
キク科
花期 8▶10月



キブシ
キブシ科
花期 4月



ツバメオモト
ユリ科
花期 5月



フシグロセンノウ
ナデシコ科
花期 7▶9月



ウワミズサクラ
バラ科
花期 5月



自然のたくみさ・ふしぎさ

私が小学生の頃は、家の周りに、自動車よりも耕運機のほうが多く通るような未舗装の農道がたくさんあり、遊びに行くときは「裏道」と称して、この細い道を自転車で走り回ったものです。そんな時、道の真ん中や両脇に生えて、私の通行を邪魔した植物があります。まるで、意固地になって動こうとしない頑固者のようなこの植物。それは「路上植物」と呼ばれることもあるオオバコでした。私は、どうしてこんな人に踏みつけられるところを好んで生えているのか、子どもの頃から不思議でたまりませんでした。そこで今回は、このオオバコに注目して、観察してみることにしましょう。

生まれ持った特異体質

このオオバコは、独立したオオバコ科に属する植物です。東アジアでは平地から高地まで普通に見られ、多くの人に知られた有名人(草)です。さっそくですが、なぜ、オオバコは人に踏まれるような場所で元気に生活していけるのでしょうか。それはオオバコの内部に秘密があります。植物の場合、養分や水分は「維管束」と呼ばれる人間の血管のような組織を通して運ばれます。オオバコの場合、この維管束が非常に丈夫にできていて、何



道の中央部に生えたオオバコ

回踏まれても簡単には切れたりしないようになっています。だから、他の植物の場合、動物に踏まれたり、倒されたりするとこの管が切れて養分を通すことができなくなり、枯れてしまうのに、オオバコの場合は枯れずに元気に復活することができるのです。みなさんは、オオバコの葉を引き抜いた時、白い糸の

ようなものが切口から伸びているのを見たことがありませんか。あれが維管束です。

まだまだ不思議なオオバコの生活

この他にも変わった特徴がいくつもあります。その1つはオオバコの花です。オオバコの花は、花茎の下の方から上に向かって順に咲いていきます。咲くといっても一気に咲くのではなく、最初は蕾の先端から歯間ブラシのような柱頭を1本出すだけです。そう、オオバコは雌しべ先熟花(雌しべの方が雄しべよりも先に成熟する花)で、この時期に他の花からの花粉を貰い受粉しようとします。その後、花冠が開き、長い花糸の先端に葯をつけた4本の雄しべが顔をだします。つまり、近親交雑を防ぐ仕組みを持っているのです。よく開花時期のオオバコを観察すると、花茎の下の方から、雄しべを出した雄性期の花(雄花の役目をする時期)、柱頭(雌しべ)を出した雌性期の花(雌花の役目をする時期)、まだ開花前の蕾の状態のもの、といろんな段階の花が見られます。

次に、花が終わって茶色く成熟した果実を観察してみましょう。オオバコの果実は「蓋花(かいか)」と呼ばれます。蓋花の蓋(かいか)は文字どおりふたを意味し、オオバコの果実は中央部で横に割れて、上部がふたのようにはずれて種子をこぼします。オオバコは、この種子にも特別な仕組みを持っています。種子は、乾燥しているときはサラサラの状態ですが、地面に落ちて水分を得ると粘液を出してべたつき、いろんなものにくっつくことができます。そのため、靴や自動車のタイヤなどにくっついては、遠くまで運んでもらうことができるのです。このことから、人の行くところへは、たとえ山の頂上だろうとオオバコは顔を出すことができるのです。こういった特徴を生かすには踏みつけられるような道端に生えた方が、かえって有利なんですね。

中国では、牛車や馬車の通る道に沿って生えることから「車前草」と呼ばれ、日本でも「踏み跡植物」とも呼ばれるこの「大葉子」。この植物もすごい植物なんですね。(伊藤)

参考文献：「植物の世界 19」朝日新聞社

野草を守り育てる人々

園長 蜂谷 哲平

野草園は、植物を全く自然のままにしておくのではなく、相当人手をかけて栽培しております。そうしなければ雑草に負けて消滅していく野草もかなりあるからです。

そこで植物同士が、美しい花を咲かせられるように、雑草を取り除き、必要に応じて施肥をしたりして手入れをしています。それは雨の日も風



の日も、又寒い日も真夏の炎天下の日も続けられます。このように黙々と働く植物管理担当の裏方の仕事があってこそ草花も花木も美しい花を咲かせることができます。来園された皆様が、美しく咲き競う花をご覧になって喜ばれることを心から願って、より一層魅力ある野草園づくりに励んで参りたいと思います。

植物ウォッチング 野草園のプロペラ植物

野草園にはプロペラ型をした種子を持ち、遠くまで種を飛ばす工夫をしている植物がたくさんあります。どんなものがあるのか一緒に見てみましょう。

カラコギカエデ ▶ カエデ科



葉を見る限りでは、カエデの仲間には見えません。翼果を見て、やっとカエデの仲間と気がつきます。水辺の好きな植物です。

トウカエデ ▶ カエデ科



もともとは、中国東南部原産の植物です。庭木として入ってきたようですが、現在は街路樹として、多く利用されています。

ハウチワカエデ ▶ カエデ科



山で普通に見られるカエデです。春の花の時期は赤くて目立ちます。ハウチワカエデの仲間は、翼果に毛が多く、他のカエデと区別できます。

ウリハダカエデ ▶ カエデ科



木の枝や若い幹に、縞模様が見られ、マクワ瓜に似ているので、ウリハダカエデの名前があります。山に普通にありま。

アオダモ ▶ モクセイ科



プロ野球の選手の使うバットは、この木で作られたものがほとんどのようです。翼果は細長いのですが、やはり空を回転して飛びます。

オオバボダイジュ ▶ シナノキ科



西藏王周には、大変多い木です。音符の記号のような形をした苞葉を回転させて飛びま。